

川に学ぼうかい in 浦上川

(大橋地区)

代表

兒玉 英治さん



生き物、歴史、人と人のつながり 「水」を通じて浦上川の魅力を発信していきたい

長崎市内にある浦上川で、2005年8月に大橋地区の清掃活動を開始。当初は3人でしたが、浦上川流域に生活や仕事、学校などで関わりのある仲間の輪が広がり、今は毎回10~20人ほどが活動に参加しています。「2か月に1回、川の流れに触れながらゴミ拾いや観察などを行っています。年齢層は幅広く、社会人だけでなく大学生も活動しています」と代表の兒玉英治さん。

「ホームページで活動記録や次回予定などを掲載し、初めてでも気軽に参加しやすいよう、開かれた場づくりにも努めている」と語ります。こうした工夫により、大学のサークルなどを通して口コミで若い世代も参加。「ゴミ拾いというより遊びみたいな感じで、思いがけない発見があった」「清掃活動やボランティアというと参加するのに少し勇気があるように感じる人もいるが、やってみると意外と

楽しい。川遊びの延長だと思って、もっと気軽に参加してみても」とメンバーの大学生たちも前向きに参加してくれているようです。

昨年、関係団体で取り組んだイベントでは、参加者から「生き物がたくさんいた」「楽しかった」との声が多く寄せられました。この大橋地区は長崎港からの海水と川の水が接する地点。アユやナマズ、カワムツなど、いろんな生き物が生息しています。このため、今年のイベントでは、浦上川の生き物や歴史の紹介なども行ったそうです。

今後の目標は「みんなで楽しく新しい発見を!」。活動の終わりに感想を分かち合うことで「参加した人たちに、みんなで活動する楽しさなどの感情の輪が広がっていけば。そして、生き物や歴史、人と人をつなぐ「水」を通じて浦上川の魅力を発信していきたい」と語ります。

